

特 集 京都市図書館に最近の動きをきく

京都市図書館にインタビュー

近年の利用状況の変遷や最近の施設・サービスの整備、ニーズへの取り組み、そして課題について知ろうと、京都市図書館（担当:京都市教委生涯学習部施設運営担当）でお話を伺って来ました。

2017年3月13日 於：京都アスニー4階

図書館：古川勝英氏（京都市教育委員会事務局生涯学習部施設運営担当図書館担当課長）

図書館：尾上奈緒氏（公益財団法人京都市生涯学習振興財団本部総務課課長補佐）※役職名等はインタビュー当時

けやき：永井、奥坂、島崎

●京都市図書館の利用の推移

けやき：まず京都市図書館の利用の現状を教えてください。

図書館：平成27年度は入館者数426万人余、貸出冊数765万冊余で、前年度比はいずれも約3%の増加です。

けやき：利用が増えたんですね。以前、減ってきていると聞いたことがあるのですが。

図書館：最近10年では18年1月のインターネット予約開始以来、22年度まで、利用が伸びていました。20年6月に右京中央図書館が開館し、CD・DVDの全館での予約・取り寄せも始まったこともあり、20年度は、入館者数、貸出冊数ともに10%を越える伸びを示しましたが、22年度にピークを迎え、その後1～3%程度の幅で減少していました。しかし、醍醐図書館の休館などもあった25年度を底に、26年度は上昇に転じ、27年度には更に利用が伸びました。

けやき：回復の理由は？

図書館：26年度に全館の開館時刻を30分早めて、午前9時30分としたこと、地域館の第2・第4水曜日の休館をやめて開館としたことが大きいですね。またインターネット予約についても27年度は前年度比5%伸びています。

けやき：京都市図書館のインターネット予約は政令指定都市の中でも多い方と聞いています。ニーズがあるんですね。

図書館：身近な館で受け取れる便利さで、利用しやすくなっていると思います。

けやき：インターネット予約した本のうち、近くの館にな

い本は、ブックメール便で近くの館に運ばれると聞きました。ブックメール便について教えてください。

図書館：ブックメール便は、運送業者と契約してトラック等で各館の予約本や返却本を運ぶ図書搬送システムです。現在、京都市図書館全館を5コースに分けて、5台のトラック等が本の搬送を行っています。

けやき：各館には毎日本を届け、回収しに行くのですか？

図書館：地域館は原則1日1回、中央館や左京図書館など、利用の多い館は1日2回、回っています。以前はブックメール便は1台で各館には週1回の運行でしたが、見直し・充実を進め、現在の体制となりました。

けやき：それで、インターネット予約すると以前よりずっと早く身近な図書館に本が届くのですね。

けやき：便利になるのはありがたいですが、インターネット予約は簡便さもあって、あれもこれもと過剰に予約している傾向があるようです。本の中身が直接見られないので、届いてみたら要らない本だったとか。インターネット予約の利用が増えた分、職員さんの仕事の量は増えるわけですね。

図書館：利用が増えるのはうれしいのですが、職員の手作業で行っている部分も多いため、業務量が増えてきているのも事実です。

けやき：利用者は気軽に予約できるということは、図書館の仕事量を増やしている、ということに今ひとつピンときていない気がします。インターネット予約の利点を活かしつつ、利用者も図書館の仕事量をむやみに増やさない使い方を心がけたいと思います。

●施設の整備について

けやき：京都市図書館の施設の整備について教えてください。

図書館：28年度は、主なものとして、中央図書館の授乳室設置、醍醐中央図書館のAV視聴ブースの改修、岩倉図書館の照明の増設、向島図書館の点字シート等の増設・改修を行いました。

けやき：ところで地域館の児童コーナーの改修の5ヶ年計

画があると聞きました。

図書館：28年度は洛西図書館で児童コーナーの書架の配置を工夫するなどし、児童閲覧コーナーが子どもに使いやすくなりました。山科図書館では、幼児コーナーの畳敷きをコルクタイル敷きに改修しました。

けやき：18年前、左京図書館が移転開館する際に、アレルギーの子どもに配慮して児童コーナーをコルク敷きにと要望し、実現したことを思い出します。その際、男子トイレにも子ども用便器やおむつ替えコーナーを要望しました。

図書館：今回の改修で、向島、西京、久我のもり図書館に洋式トイレを設置しました。

けやき：メンテナンスにも費用がかかりますね。

図書館：要望の多いのはトイレや照明の改修です。また館内に何か催しができるスペースも工夫して生み出していきたいと考えています。昭和50年代建築の古い図書館のメンテナンスも必要です。

けやき：かねてからの要望ですが、利用の多い左京区でぜひ新左京中央図書館をお願いしたいのですが。

図書館：残念ながら、現在の財政状況等から考えると非常に難しいとしかお答えできません。

●多様なニーズに

けやき：中央図書館の授乳室は複数ある対面朗読室のうちの一室を転用されたのですよね。左京図書館でも、すでに対面朗読室をアシストルームとして授乳にも使われていますが、地域館ではそのような部屋は1室しかないので、対面朗読室としての機能も残さないといけませんよね。

図書館：対面朗読室は利用が少ないのが現実ですが、必要がないわけではなく、PR不足ということもあります。

けやき：そうですね。

図書館：対面朗読にも対応していきたいのですが、職員の仕事量として物理的に大変になってきており、大きな課題です。もう図書館職員だけで多様なニーズに対応するという時代ではなく、多機関との連携による工夫が必要と感じています。

図書館：今、図書館が世間から注目されていて、様々なと

ころから声がかかります。

けやき：何か例をお聞かせ下さい。

図書館：従来から取り組んでいた「憲法月間」「環境月間」「人権月間」関連資料の展示や、保健福祉局のこころの健康増進センターと連携した啓発事業「京いのちほっとブック事業」や「アルコールブック事業」、PTAフェスティバルや府立植物園のイベントに出向いて読み聞かせ等も行っています。29年度もいろいろと計画を進めているところです。おたのしみに。

●子どもたちのために

けやき：図書館のニーズは京都市でも高いと思うのですが。

図書館：登録率は全市民の3割（40万人）です。図書館の存在を知らないために利用しない市民に向けてもっと発信しないといけないと思います。特に子どもは、周りの環境によって利用に差ができるので、学校と図書館が連携して、子どもの頃から本を信頼する力をもってほしいと願っています。

けやき：同感です。

図書館：身近に本がある環境作りは大切だと思います。今京都市では学校図書館司書が増えており、学校司書の授業支援の需要も高くなっています。学校図書館司書のスキルアップ研修を図書館と市教委で行っているところです。

けやき：どのような研修ですか？

図書館：はじめは読み聞かせ講座でしたが、現在ではブックトークの入門、応用の講座も開いています。また、中学生が家庭科で地域の子どもに読み聞かせをする機会があるので、読み聞かせする中学生を指導するための講座なども開催しています。講座をきっかけに授業でブックトークをした例も聞いています。

けやき：学校団体貸出については？

図書館：10年前から続いています。これだけで学校図書館の資料の需要に応えるのは大変です。どの学校も同じ単元を同時に学ぶので全学校に対応するのは難しいです。

けやき：学校図書館の資料の更新についての支援は？

図書館：先生方が、その取捨選択に迷っておられ、資料の更新の判断に役立つ「信頼できる（本の）リスト」がほしいという要望がありました。そこで、26年度にモデル小学校1校を選定し、取り組みを始めました。

けやき：どのようにリスト作りをされたのですか？

図書館：全学年について、京都市図書館の担当司書が単元に見合った本を選んでモデル校に届け、学校では実際にその本を利用し、その結果を図書館にフィードバックします。教育現場からの説得力のある情報ですので、これを基に図書館で本のリストを作って市教委に送り、市教委が他の学校の教員が利用できる形（イントラネット）で提供しています。これをまる3年続けています。

けやき：リストの効用は？

図書館：多くの学校で利用してもらっています。すでに初年度から、学校の蔵書の除籍の判断に役立つ、古いが役立つ本を捨てずにすんだ、という声を聞きました。担当司書ももっとリストを作りたいと感じています。

けやき：それは素晴らしい取り組みですね。ところで、赤ちゃんへのサービスは？

図書館：28年6月に保健所と図書館がタイアップした、京都版ブックスタート事業が始まりました。

けやき：どのような事業ですか？

図書館：8ヶ月児健康診査を保健センターで受診した赤ちゃんとその保護者の方に、専用の手提げ袋に絵本1冊（5冊から選んでいただく）と図書館の利用案内、赤ちゃんの保護者向け読書ノート、赤ちゃん絵本の紹介冊子等を入れた「読み聞かせスタートパック」を贈呈させていただくという、子ども若者はぐくみ局の事業です。図書館では、その事業と連携して、全館にブックスタートコーナーを設置して、贈呈させていただく絵本のほか、絵本の紹介冊子に掲載されている本をいつでも手に取ってもらえるようにしています。

けやき：保健センターの乳幼児健診は、保護者が図書館の役割を知るととてもいい機会だと思います。さらに妊産婦健診や3歳児健診の折などでも積極的に保健センターとタイアップして情報発信をお願いします。

●視覚障害者情報総合ネットワーク（サピエ）について

けやき：サピエとは何ですか？

図書館：いわゆる「聞く本」で、点字や音声デジター、テキストデジターなど5種類のデータを提供するネットワークです。京都市図書館もこのネットワークに加入しました。例えばデジター図書（CDになった録音図書）なら5万タイトルから選んで利用いただけます。

けやき：サピエを利用するとそれぞれの図書館が「聞く本」を蔵書するより、飛躍的に多い本や情報をネットワークを通じて手にすることができるのですね。

図書館：はい、図書館でネットワークからダウンロードして、CDに焼き、デジター図書として利用していただきます。

けやき：誰でも利用できるのですか？

図書館：対象は視覚などの障害により活字による読書が困難な方です。

けやき：デジター図書には新刊もあるのですか？

図書館：はい、新刊もデータ化されていて、評判がいいです。

けやき：利用する際は、事前に登録をするのですか？

図書館：はい、このサービス利用のための登録が必要です。

けやき：京都市図書館全館で登録や貸出ができますか？

図書館：登録やデジターCDの作成等は中央図書館で行いますが、実際の申込書の受付や貸出資料のお渡しなどは、お近くの図書館でさせていただきます。また、来館が困難な方にはご自宅まで貸出資料を配送する、在宅貸出制度もご利用いただけます。どうぞ、ご利用ください。

けやき：ところで、拡大読書機はどの館にありますか？

図書館：中央、醍醐中央、伏見中央、右京中央、山科の5

館です。

けやき：弱視の子どものために、地域館にも拡大読書機を、という要望を聞いています。

図書館：心に止めておきます。

●28年度の取り組みから

けやき：28年には夏の夜間開館がありましたね。

図書館：5月から8月の土曜日、4つの中央館で、通常17時の閉館を19時まで延长了。

けやき：その効果は？

図書館：雨が多かったこともあり、予想していたほどには利用は伸びませんでした。実際にご利用いただいた方からは「ありがたい」「いい取り組みだ」など、多くのうれしいご意見をいただきました。29年度も実施に向け検討を進めています。

けやき：28年4月に大津市と宇治市との相互利用が始まったのですか？

図書館：はい、大津市、宇治市在住の方にも京都市図書館の利用登録をしていただけるようになりました。

けやき：それでは私たち京都市在住の者も大津市と宇治市の図書館で利用登録ができて、本を借りることができるということですね。

図書館：はい、その通りです。

けやき：宇治や大津の図書館で借りた本を京都市図書館で返却できますか？その逆は？

図書館：いずれもできません。借りた自治体の図書館に返却していただく必要があります。

けやき：登録人数はどれくらいですか？

図書館：宇治市・大津市から京都市図書館への登録は1,600人、京都市から宇治市・大津市の図書館へ登録した



No. 53

フラダンの副題

古内一絵作 小峰書店 2016年

同級生に強引に勧誘されてフラダンス同好会に入った。簡単そうだったフラ

ダンスが、筋力と体力を要求される高度な踊りだと知り、徐々にその面白さにのめりこんでいきます。震災から五年後の福島県の「今」を生きる高校生の姿が丁寧に描かれていて、何度もはっとさせられました。読むと元気ももらえる、青春小説です。

(醍醐中央図書館・夏秋まどか)

のは270人です。主に、向島、醍醐中央、醍醐、山科といった、宇治市、大津市と生活圏の重なる地域の図書館への登録が多いですね。

けやき：移動図書館の「こじか号」が新調されたと聞きました。

図書館：29年3月24日に新車の出発式を行いました。新こじか号は、側面に、京都市立銅駝美術工芸高校の生徒さんによる「こじかと本」をモチーフとしたイラスト作品をプリント塗装するなど、市民のみなさまに親しみを感じていただけるデザインとなっています。これまで通り、1ヶ月に1回、41ヶ所を巡回します。

けやき：長年要望していることですが、京都府立図書館の児童室の廃止や図書館の移転等で条件が変わっているところについて、巡回ステーションの見直しをぜひお願いします。

●29年度には

けやき：29年度の主な取り組みは？

図書館：この年度は京都市図書館同士を結ぶネットワークシステムの更新期に当たりますので、準備を進めています。ホームページの刷新やスマートフォン専用サイトの提供等についても検討を進めています。

けやき：検索画面について、子どもが自分で検索できるような子ども用の画面の整備をお願いしたいです。

図書館：ブックメール便について、29年度からは京都府立図書館にも週5回運行します。府立図書館を通しての相互貸借の流れがよくなるでしょう。また京都市立芸大にも運行します。

けやき：京都市立芸大の図書館の本を身近な館に取り寄せられるようになるのですか？

図書館：はい、但し、その館内での閲覧のみとなります。また芸大の学生が大学図書館に京都市図書館の本を取り寄せられるようになります。

けやき：施設面では？

図書館：木のぬくもりのある図書館づくり事業として、京都府内産木材を使用したベンチ（山科図書館）やウッドデッキ（岩倉図書館）の更新を予定しています。

けやき：催しでは？

図書館：例年4月23日前後を「子ども読書の日」として各館で催しを開催していましたが、29年度は4月1ヶ月間を「子ども読書月間」と位置付けて、なにか図書館でおもしろいことをやっているね、という情報発信基地となるような取り組みをしていきます。

けやき：具体的には？

図書館：0歳からの絵本コンサート、ビブリオバトルティーンズ大会、子どもの本のブックリサイクルといった催しのほかに、各館で図書館員や地域の方々による読み聞かせなど行事を実施します。

（インタビュー構成：島崎）

インタビューを終えて

けやき 永井麻里

2012(平成24)年の夏以来5年ぶりに、京都市図書館の現況と今後について伺った。

5年前と比べ変わったことの第一点は、開館時間の繰上げ・延長や地域館の第2・第4水曜日休館が廃止され開館時間がかなり増えたことだ。インターネットやブックメール便を駆使することで、本の予約や借り出し・返却が、さらに便利になったこともありがたい。一方で、全国的な図書

ライオンと魔女

ナルニア国ものがたり 1

C.S.ルイス著 瀬田貞二訳 岩波書店 1966年

会話のできる動物達、そしてフォーン。私は、この魔法の世界へひきこまれてしまった。

主人公がたんすを開け、冒険を始めるこの話で、私の一番好きな場面は、主人公四人の子供がケア・バラベルの王座に座り、王や女王として祭られるところだ。四人が力を合せ成し上げた成功に私は興奮した。私もいつかそんな冒険がしたい。

（小5・寿那）

館の司書の定員減と非正規職員増の流れの中、京都市図書館でも職員体制はなかなか厳しいようだ。正規職員の増員を願うとともに、司書さんの能力が存分に発揮できる環境づくりに、われわれ利用者も協力していきたい。

また、施設面では、トイレや児童コーナー・授乳室・照明・点字シート等の改修・設置・増設が進んでいる。赤ちゃん・子ども・高齢者・障がい者も利用しやすい、「だれもが使える」図書館へと、施設面に於いても進化し続けて欲しいと思う。図書館は、そもそも本の貸し出し・返却のためだけに訪れる場ではなく、本来は、そこでゆっくりと読書を楽しみ、豊かな時間を過ごすことができる空間でなければならない。「木のぬくもりのある図書館づくり事業」は、そのような空間づくりの一助となるだろう。

とはいえ、けやきの活動拠点である左京図書館は、利用者の多さに比べ施設のスペースそのものが非常に小さい。

「市北東部にも中央図書館を」という声は今後も挙げ続けたい。

図書館サービスの面でも、学校図書館支援や京都版ブックスタート事業、視覚障害者情報総合ネットワーク（サビエ）への加入等、様々な取り組みが進んでいる。2017年度には、ネットワークシステムの更新が行われる。近隣の大阪府立図書館や大阪市立図書館などのホームページは、親しみが持てる上に、蔵書検索や子どものページもとても使い勝手がよい。この際に京都市図書館のホームページもぜひバージョンアップして欲しい。スマホからやパソコンからの利用が便利で身近なものになれば、若年層の図書館への呼び水となるだろう。

そして、インタビューでも伺ったが、図書館への多様なニーズに対応するためにも、小・中・高・大学など学校、保健センターや障がい者支援の施設、動物園や美術館

などの文化施設など、他の施設・機関との連携・支援・協働が、今後ますます求められるようになるだろう。それは、実質的には、新たな利用者の掘り起こしともなり、図書館の存在を知らしめる良いきっかけともなるので、積極的に取り組んでいただきたいと思う。「図書館はこんなことやってるよ。こんなこともできるよ。」と、もっともつと市民に情報発信していただきたい。

1999年の移転新築前の左京図書館は、朝10時から夕方5時までしか開いておらず、貸出はブラウン式の紙のカード、図書館間のコンピューターネットワークもまだ出来ていなかったのも、もちろん相互貸借などできなかった。新築時にまず要望したのは、だれにとっても使い勝手のよい図書館となるように、絵本コーナーやトイレをはじめ、書架の高さや書架間の広さについてであった。オープン後は、図書館友の会けやきの活動のなかで、開館時間の延長やインターネットサービス・障がい者や児童へのサービスなどについても、利用者の声を届け続けてきた。その後、図書館等の新設に際してパブリックコメントが取られるようになったが、我々の活動が刺激になったのではと、自負している。

今、パソコンや携帯電話でも気軽に蔵書検索や予約ができ、閉館時や駅でも返却ポストに返却できる。このような図書館を‘フツー’‘アタリマエ’と思っている21世紀の若者たちも、図書館の可能性に目を向け、もっと図書館に関心を持ってもらいたい。そして、これからの図書館づくりの中核となってほしいものだ。

ぼんくら

上下

宮部みゆき作 講談社（講談社文庫）2004年

人気作家・宮部みゆきさんの長編時代ミステリーです。面倒くさがりですばらなところが好感の持てる同心・井筒平四郎が

主人公。取り巻く子供達やおじさん・おばさんが皆魅力的で、日常会話も気がきいていて楽しいです。それでいて話は少しずつ不気味に進んでいきます。読み終わると必ず、続編の「日暮らし」が読みたくなるはず！

(Y.H.)

REPORT

図書館が広げる子どもの世界

—京都の今そして未来—

けやき・左京図書館共催 講演会 2017年1月28日

2016年度の講演会は京都ノートルダム女子大学教授で京都市図書館協議会会長を務めておられる岩崎れい氏をお迎えしました。35名の参加者を得、次のようなお話を聞くことができました。

* * *

読書をする目的は、人それぞれ、また時に応じて様々でしょう。その中でも、「楽しんで」読書をすることは、子どもにとってはとても大切です。ワクワク、ドキドキ、ハラハラしたり、悲しんだりして本の世界を遊んでいる中で、子どもは数多くの体験をします。そこで、自分の知らない世界があること、自分とは違う物の見方があることなどを知り、多様な価値観を培っていきます。大人はそれを手助けする立場。読み聞かせをすることもその一つです。

幼児期の子どもに読み聞かせをしている親は多いことでしょう。しかし、小学校に入学し、文字が読めるようになると止めてしまう人が日本では7割に達するというデータがあります。子どもが文字を知った初期に声に出して読むのはまだ文字を拾っているだけで、本の世界で遊ぶには不十分。子どもが求める限り読み聞かせをしてやりたいものです（因みにフィンランドでは平均13歳まで続けている）。

読む本の選択に関しては、親が選んで与えるだけでな

く、たとえそれがどのような本であれ、子どもが薦める本を親も読んでみることも大切です。それが親子の心の交流、友人との意見の交換、社会との関わりへと発展し、自分の考えを持って社会の一員として生きていく力を養っていくことになります。

子どもが家庭の中から社会へ出ていく手助けをする一つが図書館です。図書館には様々なジャンルの多くの本があり、読める本の数も増えます。職員によるレファレンスを受けることで、さらに多様な情報を提供してもらうこともできます。子どもはそこから取捨選択し、自分の世界を広げていけるわけです。

しかし、図書館を利用しようとしてもそう単純にはいきません。校区内に図書館のある所が少ない、部活などの時間の関係で図書館に行けない、などの問題が出てくるからです。子どもの知的好奇心を満足させ、本との関わりを深め広げていくためには、地域の公共図書館だけでなく、学校図書館を充実させることも大切です。

京都市では、子どもの読書環境を充実させるために「京都市子ども読書推進計画」を策定しています。今までに、保健センターの8ヶ月健診時に絵本のプレゼントをする「京都版ブックスタート事業」など、実行に移してきました。今はその計画の第3次期に入っています。その基本計画は「子どもを取り巻く読書環境の一層の充実」など4項目から構成されています。

* * *

以上のようなお話を伺って、すべての子どもが平等に本に親しむ機会に恵まれるよう、理念としてだけでなく、着実に実行に移されるよう願って、私たち大人は子どもと関わっていききたいと感じた講演会でした。（増井）

稲と日本人

甲斐信枝作 佐藤洋一郎監修 福音館書店 2015年

野の草花を主題とする多数の絵本を紡いできた著者は来年米寿。その観察眼は、ますます鋭く瑞々しい。この本は、「稲」

と日本人との格闘の歴史と現在を、丹念な取材を踏まえた丁寧な絵と平易な文章で、読者に届ける。科学頼みで、栽培されている種類も激減した日本の「稲」。その今後を危惧する著者の言葉が胸を突く。

（会員・M.N.）

REPORT えほんのひろば in きょうと

2017年4月23日

絵本を選ぶとき、背表紙だけではどんな絵本かわかりにくいのと思っていませんか？

今年で8回目となる催し「えほんのひろば in きょうと」では、約350冊の絵本や図鑑、写真集などを、全て表紙が見えるように並べてあります。ですから、本の表紙を見て、自分の好きな本を選ぶことができます。

図書館から、動物の足跡をたどっていけば、3階の絵本いっぱい会場に到着です。中には秘密の隠れ場のような本格的テントや、寝そべって本が読めるキルティングマット、楽しい工作コーナーなどがあり、わくわくする会場設営となっています。「これ読んで～」と好きな絵本を手渡せば、ボランティアスタッフに読んでもらえます。

今年のテーマ展示コーナーには、「タンポポ」絵本が並びました。工作でも、折り紙で「タンポポ」を折り、それをカードやバッジにしました。

けやきニューズレターのデザインを担当している伊藤理恵子さんによるチラシを図書館内外の様々な場所に置いて広報した結果、今年の「えほんのひろば」には子供43名・大人35名の来場者がありました。

年々、お父さんの参加が増え、慣れた様子でわが子に絵本を読んであげていたり、ご自身が夢中になって絵本を読みふけておられる情景を見るようになりました。



また、次のような嬉しいエピソードも聞かせていただきました。赤ちゃんとの最初のお出かけが、この「えほんのひろば」であったこと。ここでの絵本との出会いがきっかけとなり、家族全員が絵本を大好きになったこと。お父さんが注文した絵本がどんどん届くようになり、お母さんは絵本学習会（毎月第4金曜日 図書館上の会議室）に参加するようになったこと、等々。

その後の反省点として、今回は工作コーナーが入ってすぐ目に留まる位置にあり、工作のみ参加して絵本にふれることなく帰った子どももいたので、工作コーナーの位置を変更して、まず絵本が目に入るような設営にしようという意見が出ました。また、小学校の読書ボランティアさんなど絵本選びに悩む大人の方にも来場していただけるよう、広報の方法を更に考えようということになりました。

今後、けやき事務局と絵本学習会は、共催の左京図書館とさらにコミュニケーションを深め、左京図書館ならではの「えほんのひろば in きょうと」を模索していきたいと思っています。

みなさんも、毎年4月に開かれるこの「えほんのひろば in きょうと」に、ぜひ来てください。そして、素敵な絵本の世界と出会ってください。（伊藤）

お知らせ

けやき会員になって

定期総会や図書館との懇談会に

参加しませんか

図書館友の会けやきでは、毎年6月に定期総会と左京図書館との懇談会を開いています。図書館の職員さんと直に交流できるととても良い機会です。日頃疑問に思っていることをお聞きしたり、要望を伝えたり…。

まだけやき会員でない方は、この機会にぜひ仲間になってください。お待ちしております。

お問い合わせ、入会申し込みはけやきのホームページをご覧ください。<http://totomo-keyaki.com>

図書館友の会けやき 総会・図書館懇談会

◇日時：2017年6月12日（月）

午前10:00～11:20 総会

- 2015年度活動報告・会計報告、
- 2016年度活動方針、など

午前11:30～12:30 図書館懇談会

- 市村守館長と司書さんをお迎えして

◇会場：左京合同福祉センター3階大会議室

（左京図書館の上階）

けやきの活動記録

2016年9月～2017年5月

2016年

9/5 ニュースレター51号印刷・発送、2016年度活動方針・会計決算報告書、2017年度予算書発送

9月上旬～

ニュースレター52号原稿作成・取材・編集

9/30.10/7

「読み聞かせ」交流会の準備

9/30.10/7. 11

「読み聞かせ」交流会

（第1・2回は左京図書館絵本入門講座も兼ねる）

11/19 第16回「おとなのための語りを楽しむ会」開催

12/上旬～

図書館で発表会のチラシ配布

12/17 クリスマススペシャルおたのしみ会に協力

12/下旬「えほんのひろばinきょうと」準備開始

2017年

1/20 ニュースレター52号印刷・発送

1/下旬～

ニュースレター53号原稿作成・編集

1/28 けやき・左京図書館共催 岩崎れい氏講演会

「図書館が広げる子どもの世界～京都の今そして未来」

2/23～3/20

「図書館で発表会」

3/13 ニュースレター53号特集「京都市図書館にインタビュー」

取材 於:アスニー（奥坂、島崎、永井）

4/15 子ども読書の日記念事業 おたのしみ会に協力

4/21 「えほんのひろば in きょうと」の絵本の仕分け・会場準備

4/23 「えほんのひろば in きょうと」開催

5/12 ニュースレター53号・活動報告・総会案内印刷発送

<図書館おたのしみ会に協力> （第4土曜）

2016/ 9/24. 10/22. 11/26. 2017/1/28. 2/25. 3/25.

<絵本学習会>（第4金曜日、3.7.9月は第2金曜日）

2016/ 9/23. 10/28. 11/25. 12/9.

2017/1/27. 2/24. 3/10. 4/28.

<事務局会議><図書館とのミーティング> （主に第1月曜）

2016/ 9/5. 26. 11/7. 12/5. 2017/1/20. 2/6.3/6. 4/3.

<「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター活動>

（毎週木曜日10:30～12:00）

2016/ 9/1.8.15.22.29. 10/6.13.20.27. 11/3.10.17.24.
12/1.8.15.22.

2017/1/5.12.19.26. 2/2.9.16.23. 3/2.9.16.23.30.

図書館友の会 けやき の仲間になりませんか

知りたい 調べたい 本の世界を楽しみたい

そんな私たちの望みをかなえ 一人一人の世界を豊かにしてくれる場所

それが私たちの願う図書館です

京都市左京図書館が市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと1999年に「けやき」を立ち上げました。図書館のスタッフとともに、左京図書館はじめ京都市図書館を支え、育てていきませんか。

次のような活動をおこなっています

であいの森

左京図書館のおたのしみ会（毎月第4土曜日 11:00）に協力。
絵本を読んだり、ブックトーク・人形劇やおはなしも。

「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター

毎週木曜日 10:30 ～ 12:00、左京図書館絵本コーナーで絵本探しのお手伝いをしたり、絵本を読んだりしています。

誰もが利用できる図書館を考える

図書館の現状を調べ学び、図書館に提案をしています。

ニュースレター編集部

友の会のニュースレター「けやき」を作成し、図書館と利用者をつなぐけやきの活動の情報を発信しています。

事務局

けやきの活動の企画提案。図書館行事に企画・協力。各グループ間や左京図書館との連絡調整を行っています。

絵本学習会

毎月第4金曜日 10:00 ～。取り上げた絵本をみんなで読み合い語り合う楽しい学習会です。

講演会・学習会

主催または図書館との共催で年に数回、地元の講師を中心に様々な興味深い講演会・学習会を行っています。

◆入会希望の方は年会費 500 円をそえ、下記郵便振込口座にお申し込み下さい。

郵便振込口座 口座番号 00920-8-156914 番
口座名称 図書館友の会 けやき

◎年会費はニュースレターの印刷および郵送費の一部に充当します。

◎活動費の寄付も歓迎。直接又は上記の振込口座をご利用下さい。

けやき情報版

京都府立京都学・歴彩館がオープン

北山通にあった京都府立総合資料館が、京都コンサートホールの南に移転新築。新たに「京都の歴史・文化に関する研究支援や学習・交流の機能」が加わった、京都学・歴彩館となってこの4月にグランドオープンした。京都府はこの施設を、「京都北山の新たな学習・交流拠点」と位置づけている。詳しくは、京都府のホームページ参照。

絵本「だれのこどももころさせない」原画展

西郷南海子(左京区在住)文 浜田桂子絵
かもがわ出版刊 2017年
原画展が開催されます。

◇日時：6月17日～7月2日 12時～18時
◇場所：ギャラリーかもがわ（堀川通り出水西入る）

編集後記

ブックメール便、サピエ、デイジー図書、ブックスタート事業一今号特集のインタビューで出て来たカタカナ語です。京都市図書館でどのようなニーズに関する言葉なのか、ぜひ特集をご覧ください。移動図書館「こじか号」の話も出ました。2007年のけやき26号で沿革や運用実態とその意義について特集しています。こちらはけやきホームページでご覧になれます。また、1年前から始まった宇治市と大津市の公立図書館と京都市図書館の相互利用についても、使い方を聞いてきました。必要とされる方にこういった情報が伝われば、と思います。（島崎）

4月、副館長をはじめ長年左京図書館で活躍してくださった司書・職員さんが多数移動された。左京図書館には、けやきが提案・企画し職員さんと協働し作り上げてきた独自の行事や活動がある。この機会に、ローテーション化していた？活動を再検証し、その意味をしっかりと伝えて、今後も図書館と力を合わせて、左京図書館を盛り立てていきたい。（永井）

◇けやき 第53号 2017年5月12日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部
題字：吉政 富美子 デザイン：伊藤 理恵子

◇発行 図書館友の会 けやき

<http://totomo-keyaki.com>